

# アフガンに戻れ、小麦の実り

無職 井原 貞徳

(山口県光市 70)

NHKでアフガニスタンの復興を特集していたが、日本人の底力を知り感動を覚えた。アフガンで一番求められているのは、農業復興。今、ある日本のグループが約60年も前に見つけた小麦の種を植え、実りをもたらしているという。

アフガンは世界有数の農業立国で小麦の自給率は100%だった。しかし、内乱などで荒れ果て外国産の小麦を植えたものの乾燥に弱く育たなかったという。

そこで、1955年に日本の探検隊が持ち帰った小麦の種子が日の目を見た。

小麦のルーツを探す故木原均博士の探検隊はアフガン全土で約500種の小麦を持ち帰った。昨秋、種子を保管している横浜市立大学のグループが現地栽培に乗り出した。アフガンの首都の試験栽培場では、実に多くの種類の小麦が収穫され、品種改良も目指すようだ。今後、日本が誇れる技術貢献になろう。プロジェクトが実を結び、平和な農村がよみがえるよう願ってやまない。